

背景と目的

- ・近年、世界的な水需要の増加が見込まれている中、農業用水の使用量を増やす余地はほとんどないとされており、水田農業においても、水利用効率の向上が求められています。また、「持続可能な開発目標（SDGs）」においては、目標6（水・衛生）の中で、ターゲット6.4「2030年までに、全セクターにおいて水の利用効率を大幅に改善」が定められています。
- ・これらを背景に、本プロジェクトでは、アジア・アフリカ地域において、水利用効率の向上に資する持続的な水田農業の在り方について検討します。また、検討成果を国際会議等で発信します。

主な活動内容

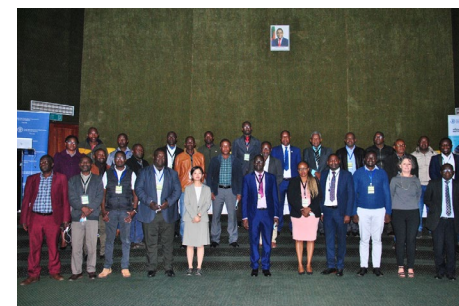
- ・アジア地域においてはスリランカ、アフリカ地域においてはザンビアをモデルとして、水田農業に関する水利用・水管理に関する情報を収集し、現状と課題を分析。
- ・分析結果を踏まえ、両国において、水田農業における水利用効率の向上に資する効果的な水管理方策について、技術及び政策の観点から研究・開発。
- ・新たに開発した水管理方策を普及させるため、現地の関係者に対してワークショップを実施。
- ・本プロジェクトにおける検討成果について、国際会議等で発信。

事業成果

- ・スリランカ及びザンビアをモデルとして、水田農業における水利用効率の向上に資する水管理について分析を行った結果、スリランカにおいては、「多面的機能（気候変動に対する影響緩和等）の発揮に資する流域の関係者の協働による水管理の高度化が有効」であり、ザンビアにおいては、「食糧増産（単収増等）に資する基礎的なかんがいシステム及び水管理の導入が有効」であることが明らかにしました。
- ・両国において、水田農業における水利用効率の向上に資する効果的な水管理方策について提案し、現地ワークショップを通じて、現場レベルでの普及を図りました。
- ・国際かんがい排水委員会（ICID）等の国際会議において、本プロジェクトの検討成果を発信することにより、水利用効率の向上に資する持続的な水田農業の在り方について、国際社会に対し、情報共有を行いました。



ザンビアでのワークショップ①



ザンビアでのワークショップ②



国際かんがい排水委員会（ICID）における情報発信

（写真出典：FAO）